

平成 27 年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進)」
成果報告書

団体名	鳥取県教育委員会
-----	----------

I 概要

1 事業の概要

(1) 目的

特別支援学校と小学校・中学校・高等学校との学校間交流を通して、障がいのある子供とない子供が障がい者スポーツの楽しさをともに味わうことにより、障がい者の社会参加や障がいに対する理解を深めるとともに障がい者スポーツの振興を図る。

(2) 内容

地域の小中高等学校との学校間交流の中で、障がい者スポーツの体験及び障がい者トップアスリートとのふれあい等の活動に取り組み、障がい者スポーツの振興と障がい者の理解推進を図る。

(3) 方法

モデル校の実情に応じて、障がい者アスリートが交流及び共同学習に参加する「トップアスリート交流型」又は親しみやすい障がい者スポーツを交流及び共同学習で体験する「スポーツ体験型」で実施する。

トップアスリートの招聘や障がい者スポーツの実技指導については、鳥取県障がい者スポーツ協会に業務を委託し、関係協会への連絡や専門的な技術指導を受けることができる体制にした。

2 事業の成果

交流及び共同学習に障がい者スポーツを取り入れることで、特別支援学校児童生徒と小中高等学校児童生徒の距離が縮まりやすく、活動への参加がしやすくなった。また、障がいのあるなしにかかわらず、お互いの検討をたたえることで自己肯定感や次への活動の意欲にもつながっている。

○県立鳥取盲学校 実施種目：ゴールボール（スポーツ体験＋トップアスリート交流）

中学校との交流でゴールボールのルールの学習と練習（4回）

中学校との交流でトップ選手を招いてのゲーム交流（1回）

- ・ゴールボールは視覚障がいのある生徒が視覚障がいのない生徒と互角に活動できるスポーツなので、自己肯定感の向上につながった。
- ・トップアスリートと一緒にプレーできたことが活動に対する意欲の向上につながり、より積極的な姿が見られた。
- ・視覚障がい者のスポーツ、生活の様子に関する理解が深まり、交流校の生徒が普段の生活でも意識する様子が見られた。
- ・トップアスリートの迫力あるプレーにふれることで、積極的にチャレンジする姿が見られた。

○県立倉吉養護学校 実施種目：ボッチャ（スポーツ体験）

指導員派遣によるボッチャの指導（小学部、高等部各1回）

小学校、高等学校との交流でボッチャを実施（各1回、計2回）

- ・ボッチャは巧緻性や視覚運動協応がそれほど必要でなく、取り組む内容も分かりやすいため、児童生徒が親しみやすい競技だった。
- ・倉吉養護学校児童生徒が事前に体験し、ボッチャについて見通しをもつことにより、小学校の児童にやり方を教える姿が見られた。
- ・日常的に福祉を学んでいる高等学校生徒であり、倉吉養護学校生徒に優しく接していたが、ボッチャをとおして本気で競い合う姿も見られ、通常の交流よりも深まった活動になった。

○県立鳥取聾学校ひまわり分校 実施種目：フライングディスク（スポーツ体験）

小学校との交流学习でフライングディスクを実施（1回）

- ・的当てや輪くぐりといったわかりやすいフライングディスクの活動が中心であったので、すぐに競技に取り組むことができ、両校児童が共に楽しむ姿が見られた。
- ・ひまわり分校児童は初めて交流する学年だったが、体を動かしながら交流することで、自然に活動に参加していく姿が見られた。
- ・小学校児童は交流前に総合的な学習の時間で福祉に関する単元を設定し、ひまわり分校にも見学に行くことで、聴覚障がいに関する理解を進めることができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

特別支援学校運動・スポーツ推進協議会において本事業の成果を報告しているが、更に広く普及していく必要がある。効果的であった内容を、インクルーシブ教育システムの構築に資する成果発表会において、紹介していくことを検討する。

また、本事業における取組成果についてリーフレット、ホームページ等を活用して県内の学校等へ情報発信するようにしたい。

※鳥取県においては、法令及び条例・医学用語・固有の名称等の表記を除き、「障害」を「障がい」と表記。